
デザートバイキング 『アップルパイ』

桜沢 純

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デザートバイキング 『アップルパイ』

【Nコード】

N1646G

【作者名】

桜沢 純

【あらすじ】

女の子らしいハナと、男の子ぽいアズサ。そんな二人が買物に……GL短編集『デザートバイキング』シリーズ

その女の子は、自分のことを『オレ』と呼ぶ。

「でさあ、『アズサも女の子なんだから、もうちよつとかわいい服着てよ』とか言いやがるんだよかーちゃん。勘弁してくれって感じ」アズサはベリーショート髪の毛をわしゃわしゃと手でかきむしって、ハンバーガーにかじり付いた。

「だって、ピンクのフリルのお花柄だよ。オレが？ あんなの、それこそハナが着ないと。服が可哀想だっていうもんだよ」

アズサがあたしを見ながら言った。あたしはポテトをひとつ、口に入れる。

「……そうかな？」

「そうだよ。今着てるワンピースだってかわいいじゃん。めっちゃ女の子ーって感じ？」

味気ないジーパンとTシャツで笑うアズサ。

白いフワフワワンピースで苦笑いのあたし。

「カサ、やっぱりでつかい方が、濡れないし楽なのかなあ？」

「でも、重くて使いづらいんじゃないかな？」

「んー……色は、黒とか茶色？」

「……赤、とかは？」

「赤！？ オレが!？」

あたしが言ったら、アズサはお腹を抱えて笑って、それからあたしに抱きついてきた。

「赤とかピンクは、女の子なハナが似合うのー……やわらけーっ」

「わ、ちよ、アズサっ」

「うーん。これくらいが無難なのかな？」

カサ売り場。そう言っつて、アズサが手に取ったのは白いカサ。飾り気のない白。

「これだったら、大丈夫だよな？」

「……うん。あ。あたし、ちよとトイレ」

「はい。この辺にいるから」

あたしはトイレに向かう。

ちよつとだけ、ため息が出た。

この、もどかしい気持ちは何なんだろう。

上手く言葉にならない気持ちは、ぽつぽつ、ぽつぽつ、炭酸ジュースの泡みたいに浮かんで消える。

「あれ……」

売り場に戻つたら、アズサがいなかった。

他のところ、見てるのかな。

キョロキョロと辺りを見回しながら歩く。

文具。雑貨。本。生活用品……

「あ……」

アクセサリー。

ちよつと、頬を赤らめて、鏡を見ながら、白いバラのコサージュを、頭にのせてるアズサ。

「あ、いたいたー。ハナ。遅いから心配したじゃん」

「あはは……ちよつと足が疲れちゃった」

エスカレーター脇のベンチに座つてると、アズサがやってきた。

「カサ、やっぱり白にしたよ……やっぱ、オレには似合っつてない？」

「ううん……そんなことない」

はにかむアズサを見て、思った。

すごく、女の子だ。

「そっか、よかった……さ、マンガでも見にいこうかな」
「うん」

差し出されたアズサの手をとって、立ち上がる。

可愛くって、柔らかくって、ぎゅってしたくなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1646g/>

デザートバイキング 『アップルパイ』

2010年10月13日02時53分発行